

経済・金融 フラッシュ

中国の銀行融資：

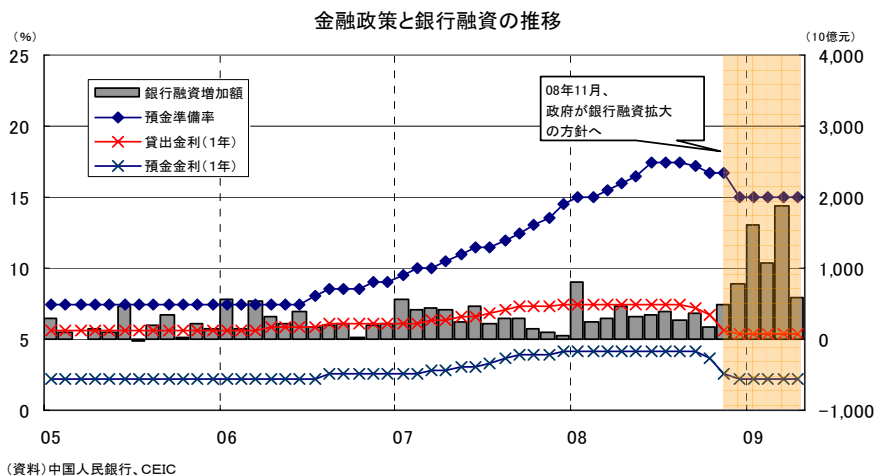
4月の5,918億元増は適度なペースダウン

経済調査部門 主任研究員 三尾 幸吉郎

TEL:03-3512-1834 E-mail: mio@nli-research.co.jp

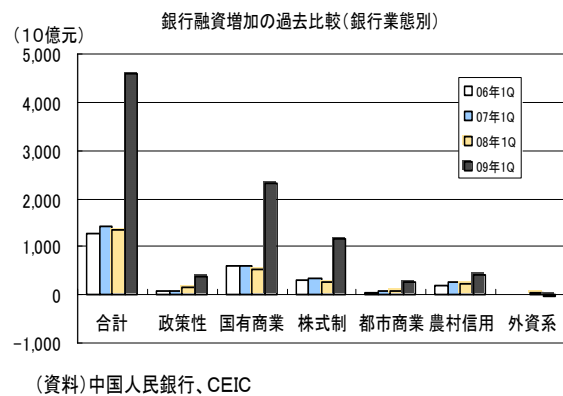
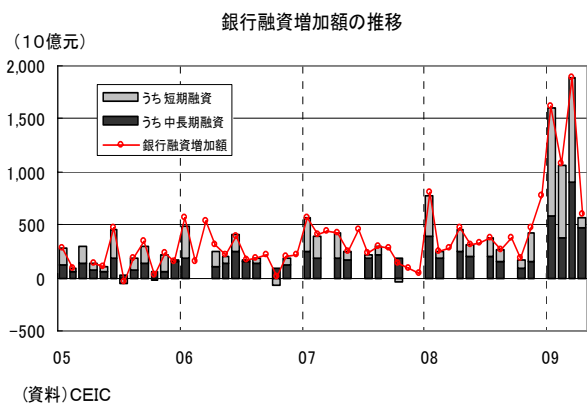
- 4月の銀行融資は5,918億元増と前月から減速したものの、①過去数ヶ月の融資急拡大がやや消化不良気味であったこと、②中長期融資は比較的堅調であったことを踏まえると、適度の調整と考えられる。
- 中国経済に回復の兆候が見え始め、このまま順調に高成長に回帰できるか注目される中で、財政出動が呼び水となり、企業の投資誘発に結びつく好循環が期待されるが、それを資金面から支える銀行融資の増加動向やその中身の変化にも、当面注意が必要。

5月11日、中国人民銀行が発表した銀行融資増加額を見ると、4月は5,918億元増となり、前月の1.89兆元増から大きく減速した。昨年9月に人民銀行が利下げに転じて以降、中国は金融緩和策を段階的に進めており、11月に政府が発表した4兆元の景気刺激策の中では、銀行融資拡大の方針を打出していた。それ以降、銀行融資は下図のとおり拡大し始め、周小川総裁自身が「我々の予想を上回った」と語るほどの勢いとなり、今年第1四半期だけで4.58兆元の増加となっていた。この様な急激な融資増加に対し、最近では、融資増加の景気刺激効果とその副作用（銀行の不良債権拡大や株式市場への流入）が議論の焦点となっていた。その意味では、今回のペースダウンは程良い調整といえよう。

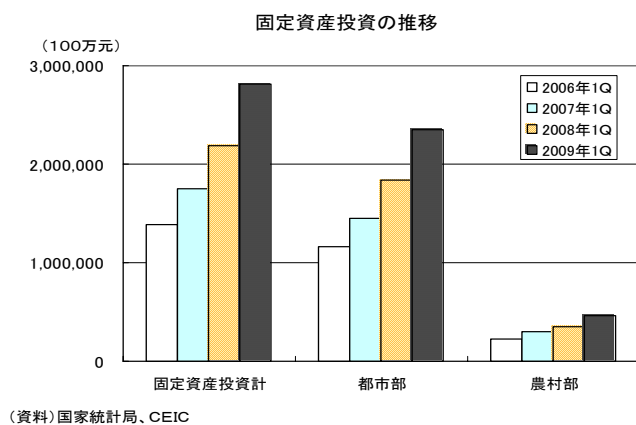
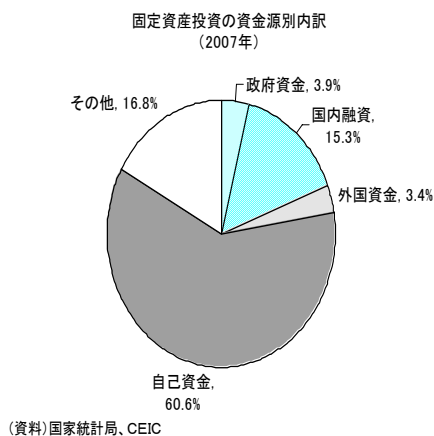


(お願い) 本誌記載のデータは各種の情報源から入手・加工したものであり、その正確性と安全性を保証するものではありません。また、本誌は情報提供が目的であり、記載の意見や予測は、いかなる契約の締結や解約を勧誘するものではありません。

第1四半期（1-3月）銀行融資増加額の内訳を見ると（下左図）、懸念した通り、短期融資の増加が多く、一部で囁やかれた「株式市場への資金流入」や「政府の号令に合わせた実績作りのための大企業への安易な大口短期融資」が無いとは言い切れない。しかし、4月は短期融資の増加が大幅に減った一方、中長期融資の増加は比較的堅調であり、政府の景気刺激策を受けたインフラ整備等の発展的な資金供給は順調に増加傾向を維持していると見られる。また、銀行業態別の増加額を見ると（下右図）、政府の意向を強く受ける政策性銀行や国有商業銀行の増加が著しく、政府系プロジェクトへの資金供給が牽引役となっている様子が伺える。また、都市商業銀行や農村への資金供給を担う農村信用社も、規模は小さいものの大きく増加しており、金融支援的な資金供給も実施されていると見られる。



さて、周知のとおり、中国は今年のGDP成長目標として8%という数字を掲げている。世界景気の大幅な落ち込みを踏まえば、輸出の大幅な減少は覚悟せざるを得ず、8%という目標の達成は極めて困難な状況にあった。一方で、中国が潜在成長率（8.5~9.5%程度）を大幅に下回る成長となれば、一時的な減速には止まらず、これまで順調に高度成長を実現してきた景気好循環の構造（外資受入⇒輸出拡大⇒企業収益増加・雇用増加⇒自己資金による投資や消費へ波及）に止めを刺しかねないとも懸念された。このような環境の中で、中国は世界でも比較的早期に利下げに転じ、融資拡大を促す窓口指導を行うなど金融緩和環境を整えると共に、外需の減少を補うべく、公共投資を中心とした4兆元の景気刺激策（中央政府負担分は1.18兆元）、5000億元の減税、その他の消費刺激策や不動産刺激策等、内需拡大を中心に据えた施策を次々に打出し、成長目標の8%を維持しており、更なる追加対策も厭わぬ政策スタンスを採っている。



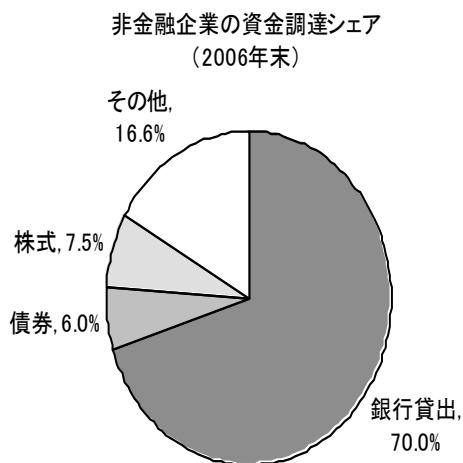
最近の中国経済は回復の兆候が見え始めたが、財政出動に支えられた面が強く、依然として回復に向けた基盤は不安定である。今後は、財政出動を呼び水として、下記の2つのルートを通じて、民間企業の投資誘発に結び付いていく、内需主導の好循環メカニズムが軌道に乗ることが期待される。

- ・ 政府の公共投資拡大策 ⇒ 民間投資拡大 ⇒ 雇用拡大・消費拡大 ⇒ 民間投資拡大
- ・ 政府の個人消費刺激策 ⇒ 民間投資拡大 ⇒ 雇用拡大・消費拡大 ⇒ 民間投資拡大

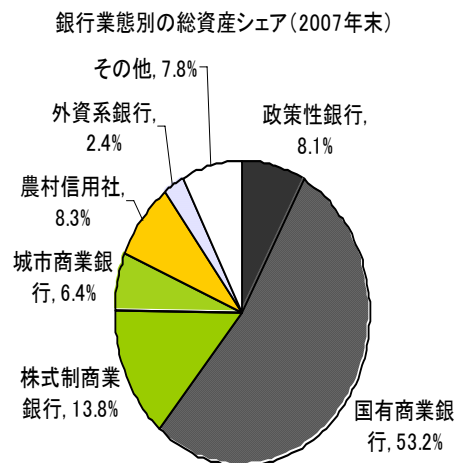
現環境下での銀行融資は、これまでに実施された短期融資が民間企業の積極的な投資に向かい、上記の好循環を資金面から支えることが期待される。しかし、内需主導の好循環メカニズムを軌道に乗せるのは、日本経済の歴史を振り返っても簡単なことではなく、当面は紆余曲折が予想される。急増した短期融資が中長期融資に振り替わらずに融資残高が急減したり、思わぬ株価急落の原因となったり、中小企業向け融資が不良債権化する等のリスクも依然として残るため、銀行融資の動向やその中身の変化からも、当面目が離せない局面が続くと考えられる。

【ご参考】

- ・ 非金融企業の資金調達は、銀行貸出の比率が7割と極めては高く、銀行の融資スタンスが景気に与える影響が大きい。また、政策性銀行、国有商業銀行は中央政府に近い銀行、株式制商業銀行は大都市に本拠を持つものが多く地方政府に近い銀行、農村信用社は農村金融の中心的存在といわれる。



(資料) 中国国家统计局、CEIC



(資料) 銀行業監督管理委員会、CEIC